

平成22年4月30日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520340

研究課題名 (和文)

非営利活動・研究活動支援のためのマラヤーラム語マニュアルの作成

研究課題名 (英文)

Compiling of Malayalam to support NPO & research activities

研究代表者

家本 太郎 (IEMOTO TARO)

京都大学・国際交流センター・准教授

研究者番号：60222832

研究代表者の専門分野：言語学

科研費の分科・細目：人文社会系・人文学・言語学

キーワード：マラヤーラム語

1. 研究計画の概要

経済利潤ではなく、人間性優先の開発モデル、いわゆる「ケーララ・モデル」や E-Literacy 教育 (アクシヤプロジェクト) の普及などの教育開発学の開発地として脚光を浴びているケーララ州 (マラヤーラム語域) での現在の非営利活動・研究活動において、二重三重の通訳が必要であり、真のコミュニケーションが履かれたとは言い難く、文法書や辞書の編纂が強く待望されていると聞く。かくのごとく、英語を介してのコミュニケーションの時代は過ぎ去り、非営利活動・研究活動従事者自身が現地言通しての意志相通が必要であり、このような直接的動機を踏まえ、内容としては、基本的な文法書、基本語彙集、言語文化情報を備えたマラヤーラム語マニュアルの作成を目指す。

2. 研究の進捗状況

Rodney F. Moag の Malayalam: A University Course and Reference Grammar を基に、例文の入力・邦訳、文法説明を継続している。併せ、語彙入力を継続している。総合化に向いている状況である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

文法項目の整備、文法形式の入力はほぼ完了した。語彙入力は十分でない。

4. 今後の研究の推進方策

文法記述の精度を上げつつ、実用的な例文・語彙の入力を進める。ネイティブチェックは随時行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計0件)

〔学会発表〕 (計0件)

〔図書〕 (計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕